

令和8年度地域課題解決共創事業「One+」 特定テーマ申請書

希望テーマ名	「ガクチカ」は、まちで育つ。 ～ まちで遊び、学び、つながる大学越境学生プラットフォームの試み ～
テーマ要旨 (課題の概要)	<p>みなさんは、盛岡のまちで遊んだり、学んだりしていますか。そして、まちの中で誰かと出会い、つながったことはありますか。大学生活の中で、まちと関わる時間は意外と少ないかもしれません。盛岡にルーツがある人も、そうでない人も、目の前の授業やアルバイト、そして将来やってくる就職活動など、日々の生活で精一杯ということも少なくないと思います。</p> <p>だからこそ、最初から「地域課題を解決しよう」、「地域の未来を考えよう」と身構えるのではなく、まずはまちで楽しく遊び、学び、人と出会うことから始めてみる。その経験が、少しずつまちへの想いや、将来を描くことにつながっていくのではないのでしょうか。</p> <p>少し視点を広げてみると、国が掲げる「地方創生2.0」では、将来の人口減少を前提に、地域課題の解決や新たな価値創出に向けて、大学を含む多様な主体が、組織や分野、地域の枠を越えて関わり合うことが示されています。こうした方向性を大学生の交流に置き換えてみると、一つの大学に閉じるのではなく、大学の垣根を越えて関係性をつくっていくことに大きな意味があると考えます。</p> <p>そこで本取組では、岩手大学と岩手県立大学をはじめとする県内の大学生を対象に、大学の垣根を越えて交流する学生プラットフォームの構築を試みたいと考えています。盛岡のまちを「遊び」と「学び」のフィールドとして活用し、地域課題や地域資源、人との出会いを通じて、自分なりの関心や挑戦を見つけ、「ガクチカ」(※)につながる経験を育んでいくことを目指します。</p> <p>この「ガクチカ」は、学生一人ひとりが形づくっていくテーマであると同時に、大学の垣根を越えた学生同士が自然につながるための共通目的としても機能すると睨んでいます。共通目的があることで、学生が無理なく参加しやすくなり、関わり続けたいという気持ちが生まれ、その先に、単なる交流にとどまらない対話や相互刺激を通じて、新たな挑戦や共創へとつながっていく——そのような場や仕掛けをみなさんと一緒に検証していきたいと思っています。</p> <p>※ガクチカ：就職活動におけるESや面接で問われる「学生時代に力を入れたこと」</p>
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が無理なく地域や他大学と関わるきっかけが生まれる ・ 学生が関わり続けたいと思える関係性や活動が育まれる ・ 対話から小さな実践へとつながる共創の芽が生まれる ・ 参加者各位の関心や挑戦が「ガクチカ」につながる経験として蓄積され、就職活動や進路選択にも活かされる。 ・ 盛岡への愛着や誇りが生まれ、シビックプライドの醸成につながる ・ 将来的なUターンや関係人口の土台づくりにつながる
担当所属	総務部管財課新市庁舎整備室
担当者氏名	主査 佐藤 匠
連絡先電話番号	019-601-6733
E - m a i l	sinsityosya@city.morioka.iwate.jp
協力内容	令和8年度岩手県立大学地域協働研究（研究テーマ：中心市街地（内丸地区）における「交流・共創プラットフォーム」の構築に向けた実践研究 研究代表者：総合政策学部教授 倉原宗孝氏 共同研究者：佐藤匠ほか）との連携が想定されます。
その他	